

未来をつむぐライフマガジン

FREE PAPER

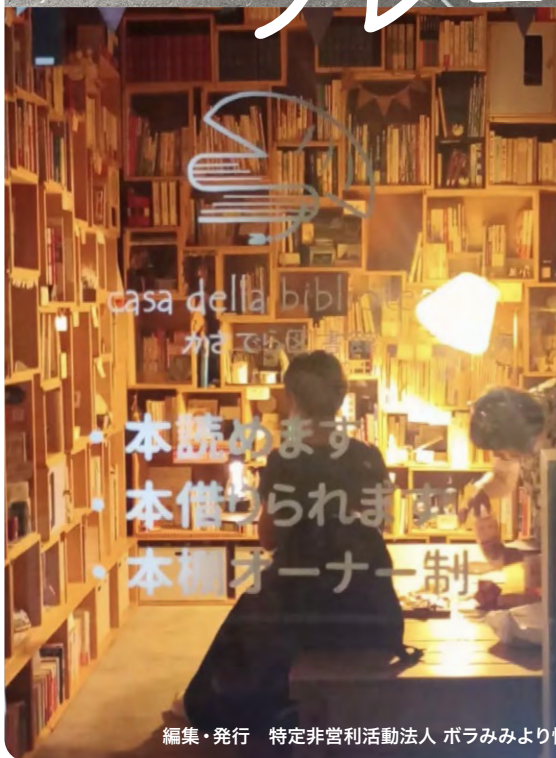
無料

ご自由にお持ち下さい

ボラみみ

2025年 No.261

01-02月号



フレ〜フレ〜



今号のテーマは、「フレ-!フレ-!」。

新しい年のスタートに、ボラみみから皆さんにエールをお届けします。
 誰かを応援しているつもりが、気づけば自分自身も元気ももらっていた——
 そんなあたたかいエールの循環がひろがっていくことを願って、
 この地域のすてきな活動や復興支援に心を寄せるボランティアの皆さんの活動をご紹介します。
 さあ2025年、どんな1年になるのでしょうか。
 今日より明日、明日よりあさってが、少しでもいい日になるように。
 今年も『ボラみみ』は、皆さんのそばで、皆さんの思いやはじめの一步を応援する雑誌を目指します。

INDEX

2025 1-2

● 決定!!第11回 ボラみみアワード	P.02
● 続け!みんなのエール	P.05
● 能登半島災害へ、これからもできる応援	P.08
● 佐藤元紀の「アクセル踏めば何かが変わる」02	P.09
● 第85回 企業の社会貢献活動の現場から	P.10
● あなたの街のボラスポ紹介!	P.10
● CivicTech入門15	P.11
● ボランティア情報	P.12
● ボラみみINFORMATION	P.15



(右上から時計回りに)
 日本介助犬協会
 災害ボランティア 愛・知・人
 Code for Nagoya
 かさでら図書館運営委員会!
 日本ウクライナ文化協会



決定!! 第11回

ボラみみアワード



「この地域で活躍する市民活動にエールを送りたい!」という想いで始まったボラみみアワード。11回目となる今回は、ボラみみより情報局のボランティアスタッフが推薦した21団体の中から、投票により5団体が決定しました。それぞれの現場で人々に寄り添い、多くの人たちと手をつないで活動を展開している受賞団体の皆さん。

あなたも、ボランティアや寄付など、自分にできる方法でそんな活動を応援しませんか?あなたの参加が、もっと地域を豊かに、あたたかくする力になるかも。

社会福祉法人日本介助犬協会

人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして

障がい者の心と身体のパートナーである「介助犬」。介助犬と暮らし始めて、人に頼まなくてもできることが増えたり、介助犬を連れていて周りの微笑みや温かい視線を感じたりすることで、少しずつ笑顔が増え、自分らしい生活を取り戻しています。日本介助犬協会では1995年から介助犬の育成に取り組み、また、近年は犬と人をつなぐ取り組みとして「Dog Intervention®」や「With Youプロジェクト」を行っています。2009年には、日本初の介助犬専門訓練施設「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～」を長久手市に開設。介助犬を希望する方が宿泊して合同訓練を行う部屋もあり、自立と社会参加に向けて様々な想いを胸に一歩踏み出し、合同訓練を受け認定された介助犬ペアが、毎年ここから誕生しています。



★DATA★

- 創立: 2004年
- ボランティア数: 340人
- 連絡先: info@s-dog.jp
- URL: <https://s-dog.jp/>



★受賞コメント★

このたびは素敵な賞をありがとうございます。私たちの活動はボランティアの皆さまのご協力なくては成り立ちません。これからも犬を通して一人でも多くの方が笑顔になれるよう活動を続けてまいりますので、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。



災害ボランティア 愛・知・人

迅速で継続した支援でつながりを深めて

春日井市に拠点を置いて活動する災害ボランティア団体。東日本大震災以降、各地で起きた災害の被災地で迅速な復旧支援活動に取り組んでいます。能登半島地震では珠州市に入り、避難所で過ごす人たちに食糧などの物資を届けたり、炊き出しを実施。現在も住宅の屋根などの復旧作業を継続しています。「小さな気持ちを伝え・広げ・届けよう」を活動理念に掲げて、助け合う気持ちを広げ、無理せず自分サイズで小さなことから始めようと呼びかけています。地道で着実な活動を通して、被災地で、地元で、人と人とのつながりを深めています。



★DATA★

- 創立：2011年
- ボランティア数：800人
- 連絡先：aichijin0311@gmail.com
- URL：https://www.aichijin.org/



★ 受賞コメント ★

このたびは、お選びいただきありがとうございました。災害発生時には、いろんな団体が、得意分野を活かしていくことが大切だと考えています。ボラみみを通して、今後もつながりを持てれば、ありがたいと思っています。



Code for Nagoya

地域の課題をテクノロジーで解決!

名古屋を中心に活動する「シビックテック」団体。IT技術を活用してまちづくりや地域課題解決を図るワークショップを開催したり、メンバーが社会課題をテーマとしたアプリを開発してコンテストに応募したりといった活動を展開しています。AIをはじめとするIT技術の進歩は目覚ましく、私たちの仕事や暮らしに大きな変化をもたらしていますが、市民活動の分野も例外ではありません。テクノロジーの力を上手に活用して地域や社会の課題解決に取り組む「シビックテック」活動は、これからの市民活動や課題解決の手法を大きくアップグレードしていくことでしょ。その担い手として当団体のますますの活躍が期待されます。



★DATA★

- 創立：2013年
- メンバー数：20人
- 連絡先：info@code4.nagoya
- URL：https://code4.nagoya/



★ 受賞コメント ★

このたびは、素敵な賞をいただきありがとうございます。『ボラみみ』で「CivicTech入門」を連載させていただき、メンバーの活動やシビックテックについて知ってもらいいい機会となっており、大変感謝しております。ぜひ今後も地域や社会の課題解決と一緒に取り組んでいきましょう。



NPO法人日本ウクライナ文化協会

日本とウクライナの架け橋を愛知県で

日本とウクライナ両国の文化科学事業を目的として設立された団体。日本人にウクライナ文化や伝統を知ってもらうため、また、在日ウクライナ人が楽しめるようにウクライナの伝統的なイベントを開催してきました。2022年2月のロシア侵攻以降は、避難してきているウクライナ人への支援活動を主に実施。日本語コースや日本文化・伝統に関する事業、通訳サポート等、日本で暮らすための支援をしています。2024年5月には、名古屋駅にウクライナ料理店「ジート」をオープンし、仕事を見つけるのが非常に難しいウクライナ人避難者が主に働いています。レストランでは、避難しているウクライナ人の絵画を展示したり、手作りの製品を販売したりしています。ぜひ、ウクライナ料理店「ジート」を訪れてください。



★DATA★

- 創立：2018年
- メンバー数：7人
- 連絡先：npo.juca@gmail.com
- URL：https://jp-ua.org/



★受賞コメント★

ポラみみアワードをいただき、誠にありがとうございます。心の叫びに従って活動してきましたが、受賞のことがわかった時はとても驚きました。私たちの活動に注目してくださった皆さま、ありがとうございました。ウクライナをサポートし続けてくださっている皆さまに感謝しています。



かさでら図書館運営委員会！

一箱本棚が広げる、新たなつながり

ある講座をきっかけに出会った2人が、名古屋市南区にある笠寺観音の参道で始めた「かさでら図書館」。ユニークな「一箱本棚オーナー制度」の私設図書館です。小学生から90代までのオーナーが、おすすめの本やハンドメイド作品を本棚に並べ、一箱という小さな空間を通し、人々とつながりを育んでいます。様々なオーナーの視点により選ばれた、偏りのない本のセレクション。他ではなかなか出会えない一冊に出会えるかもしれません。図書館では、ワークショップやイベントも開かれています。読書離れが叫ばれる中、10人ほどが座れる「かさでら図書館」には、県内外から読書好きが訪れ、本を介して交流が生まれる場になっています。



★DATA★

- 創立：2023年
- ボランティア数：9人
- 連絡先：kasaderalib@gmail.com
- URL：https://www.instagram.com/kasadera.library?igshid=MjEwN2lyYWYwYw%3D%3D



★受賞コメント★

このたびは、素敵な賞をいただきありがとうございました！これもひとえに、本棚オーナーさん及び図書館をご利用いただく皆さまが盛り上げてくださっているおかげ、と心より感謝申し上げます。これからも、本を通してコミュニケーションの輪を広げていきたいと思ひます。

続け! みんなのエール



被災された方の声に直接応えるために

内藤 優花

私が働いている社会福祉協議会(以下「社協」)では、東海・北陸ブロックの社協間で、災害時の応援に関する協定を結んでおり、「災害ボランティアセンター」の運営の職員派遣を行っていました。私は、職員派遣が行われた2024年1月から7月末までの間で2回、災害ボランティアセンターの運営側で活動をしました。そこでは、被災された方から依頼を受けたり、活動して下さるボランティアさんと依頼内容のマッチングなどを行ったりしました。毎日ボランティアの皆さんと関わる中で、自分も「ボランティアとして活動してみたい」という気持ちがあったものの、なかなか行けるタイミングがなかったのですが、9月末に社協職員の有志で車に乗り合わせ、石川県能登町へ災害ボランティア活動に行くという話を聞き、ぜひ参加したいと手を挙げました。

活動当日、私は公費解体となる倉庫の家財等の運び出しを行うことになりました。依頼者やボランティアで何度も片付けをしていたそうなのですが、家財な



どがまだまだ残っていました。2階は一部床が抜けており、木の破片などを片付けながら家財等の運び出しを行いました。依頼者に「捨てるもの」「捨てないもの」の確認をしながら袋に入れていくのですが、今まで大切にしまっていたのだらうなという物も、震災の影響で捨てる必要が必ずとも胸が痛みました。

災害ゴミ仮置き場に運搬する際は、棚などの中身はすべて取り出し、木材や鉄などいくつも分別をする必要があります。また、仮置き場で捨てるゴミの順番が決まっているため、最後に捨てるものから軽トラックに積まないといけません。今まで災害ボランティアセンターでボランティアさんに呼びかけてきたことを実践しなければならないのですが、考えながら作業を行うのは、なかなか大変でした。また、仮置き場まで片道30分程度かかるため、時間も無駄にはできません。効率を考えながら、軽トラック3台に積めるだけ積み込み、何往復もして、1日かけてなんとか終えることができました。きれいになった倉庫を見て、依頼者さんはとても喜んでくださり、「ありがとうございました」と何度も伝えてくださいました。

活動先までの道では、ブルーシートで覆われた家、倒壊しそのままになっている家などを目にし、震災から間もなく10か月になる時期にも関わらず、爪痕はまだ残っていました。依頼された方は被災して自分の生活もままならない中、家などの片付けをしなければならない方も多く、何か少しでも皆さんのお力になれていたらいいなと思います。



右から3人目が筆者

能登半島地震から1年。現地に足を運び、変わりゆく被災地のニーズに応えながら活動を続けるボランティアたち。自分なりの方法で寄り添い、エールを送り続ける…。そんな思いを胸に、自分たちにできることを問い続け、活動する3人の手記をお届けします。

今の私にできることを

渡辺 瑛斗

名城大学ボランティア協議会の渡辺瑛斗です。私は2024年2月13日～2月20日と3月2日～3月9日の計16日間、能登半島地震の災害ボランティアとして富山県氷見市に、9月28日と29日の2日間は、能登半島豪雨の災害ボランティアとして石川県輪島市に行きました。

これに先立ち私が初めて行った災害ボランティアは募金活動でした。この募金活動は1月9日～1月24日の計16日間、名城大学内で行い、計255,831円もの金額になりました。そして私はこの募金活動を通して、被災された方々にもっと自分ができることはないのかと考えるようになり、実際に被災地に行き活動する災害ボランティアに参加することにしました。

私が初めて能登半島地震の被災地に行ったのは2月13日、能登半島地震から1か月ほどたった日でした。初めて被災地を自分の目で見た時はとても衝撃的だったのを覚えています。私が行った氷見市は震源地から100kmほど離れているのにも関わらず、地面が隆起し、電柱が傾き、家の中の壁が崩れて家財がボロボロになり、中には家屋が倒壊しているような所もありました。

災害ボランティア活動は、私たちだけではなく別のボランティアの方と一緒に行くことがほとんどでした。そんな中で私が特に気を付けていたことがあります。それは自分のできることを自分のペースで行うことです。周りの大人は私たちよりもボランティアの経験が多く、私たちよりも迅速に、長い時間活動を行っています。しかし、私たちはそのペースには合わせずに、無理なくできること



前列右から2人目が筆者

を、あくまで自分のペースで行うことを大切にしました。また力仕事に自信がなく、災害ボランティアは難しいと考える人もいますが、たとえ力が弱くてもそれぞれできることがあるので、不安な方も恐れずに参加してほしいと感じました。

「災害ボランティアとは何か」と考えた時、家財の搬出や土砂の撤去など、体を使った活動を思い浮かべていましたが、実際はそれだけでなく、被災者と交流することもボランティアであると知りました。災害の被害に遭われた方の中には、自分の大切な家族や家を失ってしまい絶望している人も多くいました。その方々がボランティアとお話をして、少しでも感情を吐き出すことによって以前より元気になっている姿を見て、今まで考えてこなかったボランティアの形を知り、私もボランティア活動をする上で、被災された方との関わりをもっと増やしていきたいと考えるようになりました。

能登半島地震から1年近くがたった現在でも地震の被害は残り続けています。また、能登半島地震から積みかけるように起こった能登半島豪雨により、さらに被害は甚大なものになっています。そのため私は現在も、能登半島豪雨の災害ボランティアとして被災地に足を運んでいます。私はこれからも災害ボランティアを続けていきます。私が募金から災害ボランティアを始めたように、被災者支援の募金箱に1円を入れることも立派な災害ボランティアです。皆さんも自分にできることからボランティアを始めてみるのはいかがでしょうか。



8月に見た珠洲市の復興支援と被災者の思い

窪川 佐紀



皆さんはじめまして、窪川と申します。普段は精神保健福祉士として、精神科のクリニックで相談員の仕事などを行っています。私は2024年8月上旬の6日間、「空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”」のロスター（登録隊員）として、石川県珠

洲市に支援に入りました。豪雨災害が起きる1か月前でしたので、当時は復興支援という位置付けでした。

私が主に携わったのは被災者の訪問支援で、訪問の際は、過去の訪問歴を確認の上、その方の食べやすい食材と保冷剤を持参しました。訪れた先で、血圧や酸素飽和度、室温を測り（これらは看護師のスタッフがされていました）、熱中症の注意喚起をしたり、今の心身の調子や生活の困りごとなどを丁寧に伺ったりしました。それぞれお聴きする中で、住まいの状況や家庭環境などによって、被災された個々人が抱える課題や不安、大切にしたいことも実に様々で複雑であることを肌で感じました。



自主避難されているある方は、「まだ仮設住宅が決まらない。半年以上男女混合の広間で暮らし、外で入浴している。いつまでこの生活が続くのか」と涙ぐまれ、仮設住宅にお住まいのある方は、「子どもや仕事のことを考えると金沢に戻りたいが、父はこの地で再建する気でいて、意見が割れている。1人で抱え込んでいっぱいいっぱい」と不安を吐露されていました。また、ご近所も家族も仮設住宅に移った中、半壊した家で1人で暮らす女性は、「家も傾き不便もあるが、それでも思い出の詰まった、今の家で暮らし続けたい」と力強く言われていました。中には震災をきっかけに、持病や家庭内の問題が表面化したり、悪化したりする方も見受けられました。

あくまで8月の話になりますが、震災から時間が経過する復興期では、表面的には見えにくかったニーズが、実際には複雑・多様化していました。「被災」という経験をした人々が、様々な思いを抱えながら新たな生活を立て直そうとされており、彼ら個々の思いに寄り添い、ニーズに応える支援の大切さを改めて感じました。

復興期での支援が少しずつ進んできた中で、9月の豪雨によって積み重ねてきた復興への歩みがまたも押し戻され、地域の皆さんはどれほど心を痛めておられるかと思います。今も支援が続けられており、消えかけた灯火を守りながら、再建の道を歩まれています。どうか皆さまも、引き続き被災地の声に耳を傾けつつ、そして来たる災害に備えていただければと思います。



能登半島災害へ、 これからもできる応援



2024年1月1日16時10分に発生した能登半島地震では、住宅被害は84,005棟、停電は39,900戸、断水は110,000戸と甚大な被害が発生しました。1月2日に珠洲市災害ボランティアセンターが設置されたのを皮切りに、石川県、富山県、新潟県に17の災害ボランティアセンターが設置され、その運営には各地の社会福祉協議会から職員の応援も入りました。その他、多くのボランティアが参加し、グラフにあるようにピーク時には2万7千人ものボランティアの参加がありましたが、9月に入ると6千人台に減少し、活動の終息が見えてきました。

しかし、9月20日から22日の奥能登豪雨により、河川の氾濫は21水系28河川、土砂災害は121件、孤立集落は17地区115か所と、震災に追い打ちをかける被害がもたらされました。今後、災害ボランティアセンターも閉じて、各地の社会福祉協議会の応援も引き上げていくことで、現地の社会福祉協議会は、通常業務に加え災害復興の業務を行うために負担が増えていきます。現地に対して私たちができる応援として、災害復興を支える支援金などの方法もありますので、ぜひ検討してみてください。

- ・輪島市災害ボランティア活動支援金募集 <http://www.washakyo.com/r6shienkingienkin.html>
- ・珠洲市社会福祉協議会緊急支援金 <https://ishikawa-vc.jimdofree.com/緊急支援金について>
- ・能登町社会福祉協議会 <http://noto-shakyo.jp/>

ボランティア活動者数



令和6年能登半島地震2024年11月15日(金)までの延べボランティア活動者数 全国社会福祉協議会
<https://www.saigaivc.com/data-katsudou/>

地震被害の参考：令和6年 能登半島地震の被害9月5日時点 石川県
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kouhou/hot/motto-2024summer/documents/0905higai.pdf>

豪雨被害の参考：令和6年9月20日からの豪雨による災害発生から1か月の北陸地方整備局の取り組み 国土交通省北陸地方整備局
https://www.hrr.mlit.go.jp/bosai/20240920oosame/torikumi/241018_torikumi.pdf

アクセル踏めば何かが変わる



地域の学校でみんなと同じように過ごす

～手伝って欲しいことをはっきり伝えることで青春を謳歌できた～

もとのり
佐藤元紀自立生活センター
アクセル代表

筋ジストロフィーという先天性の障害があり、電動車いすユーザー。地域の小中学校に通い、高校では入学拒否を経験する。障害が進行するにつれて悩むが、東日本大震災のボランティアをきっかけに障害者の自立支援に携わる。現在は刈谷市を中心に活動中。

小・中学校の時は特別支援学級に通っていた私ですが、中学2年生の時に、通常クラスでみんなと同じ授業を受けたいと思うようになり、学校に要望を伝えたことでクラスを変えてもらえました。悔しい思いをしたのは高校進学の時です。希望する公立高校がバリアフリーな環境になっておらず、「入試を受けるのはよいですが、学校生活は保障できません」と見学時に言われ、とてもショックで大泣きしたことを覚えています。特別支援学校の高等部に行くことも検討しましたが、小・中学校で地域の学校に通っていた私には受け入れられませんでした。

結果的に、入学したのはエレベーターなどの環境が整った私立高校でした。学校生活を送る中で、同級生たちは放課後にカラオケやゲームセンターなど色々な場所に出かけていることを知り、学校と家との往復だけで日々を過ごしていた自分は「ヤバイ!」と感じました。私もみんなと同じように出かけたと思うようになり、高校2年生の時に初めて車いすで電車に乗って外出をしました。

大学では授業を受けるだけでは物足りず、楽しいことをしたいという思いから大学祭実行委員会に入りました。最初はうまく

溶け込めませんでした。ある時、「たまには一緒にご飯に行こうぜ」と先輩が誘ってくれたことがきっかけで、少しずつみんなと仲良くなれました。多くの時間、場所を友人とともに過ごす中で、気を使わずに手伝って欲しいことをはっきりと伝えられるようにもなりました。実行委員会の仲間と旅行に行ったり、夜中に目的もなく海に行って、コンビニに寄って、車の中でくだらない話をして、朝方に家に帰る。大学生だからこそその自由な日々が、シンプルに楽しくて、有意義な時間を過ごすことができました。

日本は、「障害者は特別支援学校または特別支援学級に行くもの」という固定観念が、まだまだ根強いと感じています。もし私が特別支援学校に通っていたら、高校生の時に車いすで出かけたと思わなかったかもしれません。自分の意思を伝え、青春を謳歌することはできなかったかもしれません。子どもの時から障害の有無に関わらず、他者と同じ場所、同じ時間を日常的に過ごすことで、人は成長でき、インクルーシブな社会につながっていくはずですよ。

今回は最終回。ヘルパーの利用についてお届けする予定です。お楽しみに!

小学生の頃



大学生の頃



地元企業の社会貢献活動について、各担当者に自社の活動を紹介していただいております。85回目となる今回は、株式会社星和です。

地域を支え、共に未来を創る—「すべての人を大切にする」

株式会社星和 代表取締役 金子博昭

現代社会では、さまざまな社会問題が浮き彫りになっています。中でも株式会社星和は「娯楽」と「食」を通じて、地域に根ざした新たな価値を創出し、企業としての社会貢献活動を積極的に展開しています。

1. 復興支援活動

私たちは、能登半島地震をはじめとする大規模災害に対して、支援を惜しみません。東日本大震災以降、被災地への人材派遣や支援物資の提供に力を入れており、復興に向けた取り組みを続けています。災害が発生した際には、迅速に行動し、必要な支援を行う体制を整えています。

さらに、災害時支援協定企業として、大規模災害時には当社の施設を利用することが可能です。この取り組みを通じて、地域の安全と安心を提供し、災害時の迅速な対応を実現しています。

2. 地域の子どもたちへの支援

地元の児童養護施設との連携を強化し、来店されるお客様から募ったお菓子や玩具を毎月寄付しています。さらに、養護施設の子どもたちとのパーベキューイベントを開催し交流を深めています。心のふれあいを大切にし、地域の未来を担う子どもたちの支援にも取り組んでいます。

私たちが目指すのは、共に支え合い、すべての人を大切にする社会です。これからも地域貢献を続け、未来を共に創るために力を尽くしていきたいと考えています。それが私たちの願いです。



株式会社星和

〒491-0932 愛知県一宮市大和町毛受字正寺31



あなたの街のポラスポ紹介！

ボランティアやNPOの情報を得ることができる
あなたの街のボランティアスポットを紹介していきます。

北名古屋市市民活動センター「μ-base」

まちの未来をともに育む共創拠点



多様な主体の市民が協力し、まちの新たな価値を創造する「共創のまちづくり活動」。その拠点として、「μ-base(ミューベース)」は相談対応や育成プログラム、メンバーシップ制度を通じて個人・団体・企業の連携を促進し、持続可能な地域の発展と魅力向上を支援する様々な機能を備えています。10月1日のオープンより、カフェや乳幼児・キッズエリア、自習室を中心にたくさんの方にご利用いただいております。目指すは、活気あるまちづくり拠点であり、多世代にわたる市民の皆さまに愛される集いの場。新たにまちづくりに参画してくれる担い手を増やせるよう、これまでまちづくりに興味がなかった方にこそぜひ足を運び興味を持っていただきたいと、様々な情報の提供や企画運営を行っています。



■所在地 〒481-0039 北名古屋市法成寺蔵化60 名古屋芸術大学アートスクエア(文化勤労会館)3階
■連絡先 TEL: 0568-97-7868 E-mail: mubase.kitanagoya@gmail.com ホームページ: <https://mubase.jp>



「シビックテック」ってご存知ですか?直訳すると「市民技術」とも言います。市民や行政とIT技術者が協力しつつ、ITをうまく活かして社会課題に取り組む活動です。2013年にCode for Japanという団体ができた後、「Code for OO」という団体が日本中に80ほど生まれ、各地でシビックテック活動に動んでいます。この連載では、名古屋のシビックテック団体Code for Nagoyaの関係者が、いろいろなシビックテック事情をご紹介します。

今号では、名古屋工業大学の白松研究室による、AIを活用した災害時の情報共有会議のファシリテーション支援についてご紹介します。

大規模災害時のファシリテーション

2024年6月、名古屋工業大学で開催された日本ファシリテーション協会中部支部のワークショップで、興味深い試みが行われました。このワークショップでは、2024年1月の能登半島地震をはじめ、協会がこれまで被災自治体の情報共有会議に協力してきた経験が共有され、参加者たちは実際の災害時を想定した会議の板書練習に取り組みました。この実践を通じて参加者は、「災害直後には、実はこんなにファシリテーションが大事なんだ」という気づきを得ました。さらに白松研究室の協力により、シナリオに沿った発言を音声認識して生成AI(大規模言語モデル)にまとめさせたり、課題の優先順位を考えさせたりするといった簡単な実験も行われました。

災害時の情報共有会議が抱える課題

大規模災害が発生すると、被災地の自治体では毎晩のように情報共有会議が開かれます。避難所で活動する市民の皆さん、社会福祉協議会、行政職員など、様々な立場の人が集まるこの大切な場では、思いがけない困難に直面することがあります。極限状態で疲れが重なった参加者の間では、つい感情的になってしまうことも。特に、避難所で昼夜問わず奮闘している市民の方から、行政職員への厳しい意見が飛び出こともあり、ファシリテーター役の人が間に入ろうとしても、かえって難しい状況になってしまうことも少なくありません。

AIによる新しい支援の可能性

こうした課題を解決する手段として、白松研究室では、生成AIを活用したファシリテーション支援の構想を研究しています。会議の音声をリアルタイムで認識し、重要なポイントを抽出して見える化したり、AIが適切なタイミングで確

認の質問を投げかけたりすることで、情報の正確な共有を促進できる可能性があります。特に期待されているのが、生成AIの「機械ならではの」立場を活かした感情の調整機能です。人間のファシリテーターが矢面に立たされてしまうような場面でも、AIが機械的な立場から冷静に整理することで、議論を建設的な方向に導けるかもしれません。この新しいアプローチの実用化に向けて、まずは研究予算の獲得を目指して頑張っています。

生成AIにまとめさせた模擬会議の議事録の例

1. 議事録のまとめ (PREP法)

本日の三者連携会議では、大規模災害からの復興に向けて、行政、NPO、社会福祉協議会が緊密に連携し、喫緊の課題に対処していくことが確認されました。避難所の環境改善とボランティア不足への対応、要配慮者支援のための福祉避難所の開設、在宅避難者への戸別訪問など、三者が役割分担と情報共有を行いながら、スピード感を持って被災者支援に取り組むことが合意されました。被害が広範囲に及ぶ中、行政の人員だけでは対応が追いつかない現状があるものの、NPOや社協との連携を強化することで、一日も早く被災者の生活再建を目指します。

2. 解決すべき課題

- ・ 避難所の環境改善 (断水・停電への対応、衛生環境の改善)
- ・ ボランティア不足への対応
- ・ 要配慮者 (高齢者、障がい者、妊産婦など) への支援強化と福祉避難所の開設
- ・ 在宅避難者の把握と支援 (食料・物資の配布、健康チェックなど)

3. 課題の重要度、緊急度、優先度

課題	重要度	緊急度	優先度
避難所の環境改善	95	100	1
要配慮者への支援強化と福祉避難所の開設	90	95	2
在宅避難者の把握と支援	85	90	3



ボランティア初めの一歩 大切なマナー&ルール

- 新型コロナウイルスの状況等により、変更・中止となる場合があります。必ず事前に各団体にご連絡ください。
- 希望のボランティア先へ連絡するときは、まず名前を名乗って、用件（ボランティアに参加したい・詳しく聞きたい）を正確に伝えましょう。
- ボランティアへの参加当日、急用で参加できなくなったときは、必ず電話連絡を。また、約束の時間は守りましょう。

福祉の日スタッフ募集



名古屋市で活動する4つの青年学級が名古屋市北生涯学習センターと共同で開催する「福祉まつり」の運営ボランティアスタッフを募集いたします。学生から社会人までいて、おおむね10人前後のスタッフが、企画会議などを行っています。おまつりの主な参加者は軽度の知的障害者、平均年齢は高めです。一緒に楽しんでいただける方を募集しています。

障害者 生涯学習 名古屋市 北区

- 日時：2月16日(日)9:00~16:30
- 場所：名古屋市北生涯学習センター
名古屋市北区黒川本通2-16-3
- その他：【最寄り駅】地下鉄名城線「黒川」徒歩5分
【持ち物】体育館シューズ、防寒着
【申込〆切】1月31日(金)

名古屋障害者青年学級連絡協議会
担当：木下
E-mail: pinoabcdefg@yahoo.co.jp



令和6年能登半島地震・珠洲市から学ぶ



「南海トラフ地震」に向けて、1年で2度の震度6以上の被害を受けた能登半島地震から一緒に学びましょう。
午前：能登半島地震のドキュメンタリー映画
午後：愛・知・人の活動報告・珠洲市災害ボランティアセンター神徳氏の講演会
入場は無料。珠洲焼のプレゼントもあります。

災害 愛知県 春日井市

- 日時：1月12日(日)9:30~15:30
- 場所：春日井市総合福祉センター
春日井市浅山町1-2-61
- その他：QRコードからお申込みをお願いします。
【交通手段】自動車可(駐車場あり)
【最寄り駅】JR「春日井」
【定員】200名

災害ボランティア愛・知・人
TEL:090-9231-0827
E-mail: aichijin0311@gmail.com



岐阜県御嵩町での森林ボランティア活動



岐阜県御嵩町にあるヒノキ林の枝打ち・間伐を、月に1回(第2土曜と翌日の日曜)に行きます。また、木工や製紙原料としての出荷など、間伐材の利用にも取り組みます。御嵩町は、名古屋地区の水源となっている木曽川の上流にあります。私たちの「水源の森」の整備にぜひ力を貸してください。

環境 岐阜県 可児郡

- 日時：1月12日(日)10:00~16:00ごろ
- 場所：御嵩町 中公民館(なかくみんかん)駐車場集合
岐阜県可児郡御嵩町2171-1
- その他：Eメールにてご連絡ください。
【参加費等】保険費用として100円
【持ち物】軍手、山歩きのできる服装(長袖)、昼食
【子ども連れでの参加】可能【定員】30名・先着順

みたけ・500万人の木曽川水トラス
担当：市村
TEL:052-735-5453(平日9:30~18:00)
E-mail: mitake500npo@yahoo.co.jp



子どもと遊ぶボランティア募集



名古屋市内の小学校や施設で子ども向けに工作やレクゲームを行っています。「子どもと遊ぶのが好きな大人の集まり」という感じでマったりと活動しています。子どもと遊ぶのが好きな方はもちろん、学校の先生を目指している方には子どもとふれ合ういい機会になると思います。ぜひ一度、体験にお越し下さい。

青少年 名古屋市 北区・西区

- 日時：基本月1回(第3土曜日)13:30~15:30 ※例外もあり
- 場所：名古屋市北区金城小学校、西区浮野小学校トワイライトルーム及び生涯学習センターなど
- その他：最近の活動はフェイスブックに更新されています。お申込み、ご質問は、わいわいボランティアホームページの『ボランティア募集』欄、またはEメールにてお願いします。

わいわいボランティア
担当：村山
E-mail: yy_volunteer2007@yahoo.co.jp



小中学生の居場所ボランティア募集



小中学生の居場所づくりをサポートしてくれるボランティアを募集中です。日常生活を充実させる体験を大事にしています。子どもと一緒に公園を走り回れる方!子どもたちの「お兄さん・お姉さん」的な立場になって、一緒に安心できる居場所づくりをしましょう。ぜひお気軽にお問合せください。お待ちしております!

青少年

名古屋市
中村区

- 日時: 土曜日9:30~16:00、月曜日16:15~22:00
スケジュールはお問い合わせください。
- 場所: 名古屋市中村区靖国町1-94
- その他: 必ず事前にEメールにてお申込みください。子どもたちの安心・安全な場を創るために、ご所属等(大学名・学部名・学年、社会人の方はご職業等)を教えてください。【資格、条件等】大学生、大学院生、社会人

NPO法人ささしまサポートセンター

子ども支援担当: 伊藤
E-mail: office@sasashima.info



問合せ

「学習支援・子ども食堂サポーター」募集



勉強を教えるのではなく一緒に答えにたどり着くような、どなたにでもできるサポートです。学び直し、教育や福祉に関心のある方におすすめです。併設の子ども食堂のお手伝いも募集。様々な大学の仲間と一緒に子どもたちを応援しましょう!※「尾張旭市まちづくり活動貢献学生認定制度」の対象

青少年

生
進
習

愛知県
尾張旭市

- 日時: 毎週土曜日8:30~16:30
- 場所: 多世代交流館いきいき
尾張旭市稲葉町1-41-1
- その他: 下記問合せ先、QRコードよりお申込みください。地下鉄東山線「藤が丘」、名鉄瀬戸線「尾張旭」より送迎有。ボランティア活動証明書発行。交通費実費支給、子ども食堂の昼食付き。

NPO法人しみんシップnet

担当: 伊藤
TEL: 070-3144-6485
E-mail: shiminiship@gmail.com



問合せ

ホームレスの自立支援



雑誌『ビッグイシュー』を販売するホームレスの人を支援するボランティア団体です。ボランティアとともに販売者も運営に携わりながら活動しています。ボランティアは夕方の雑誌の仕入れを支援するほか、イベント準備、販売促進ツール作り、生活支援も大切にしています。雑誌に挟み込む通信を制作してくださる方も募集中です。

人権
平和

文化

名古屋市
西区

- 日時: 15:00から約2時間。特に発売日前日(毎月14日と月末)に来ていただける方を募集しています。
- 場所: オキナワ食堂ばるやパーラー
名古屋市西区那古野2-16-7
- その他: 必ず事前にEメールでお申込みのうえ、お越しいただきますようお願いいたします。ホームレス問題に興味のある方はお気軽にご連絡ください。【子ども連れでの参加】可能

ビッグイシュー名古屋ネット

担当: 阿部
E-mail: bigissue_nagoya@yahoo.co.jp
携帯: 070-6929-7688 (緊急時のみ)



問合せ

健康マージャン教室のサポートスタッフ



主にシニアを対象とした健康マージャン教室のサポートスタッフを募集します。内容は、準備や後片付けを含む運営全般です。参加人数によっては実際にマージャンをしたり、初心者への簡単なアドバイスをお願いする場合があります。そのため、マージャンができる方が条件となります。朝から夕方までの活動となります。

高齢者

男女
参画

愛知県内

- 日時: 名古屋市内及び近郊の10会場で定期開催しています。詳しくはホームページをご覧ください。
- 場所: 名古屋市公会堂 名古屋市昭和区鶴舞1-1-3
愛知県武道館 名古屋市港区丸池町1-1-4
一宮総合運動場 一宮市千秋町佐野字向農756
クラシティ(半田) 半田市広小路町155-3
- その他: 電話、FAX、Eメールにてお申込みください。
【資格、条件等】マージャンができる方、当会の健康マージャンのマナーとルールを順守して頂ける方

健康マージャンを楽しむ会

TEL: 052-432-8601
FAX: 052-432-8602
E-mail: kenko-m@the-post.jp



問合せ

NPO法人・一般社団法人
設立・会計・税務等の支援をします
お気軽にご相談ください

サカエ税理士法人 税理士・公認会計士 遠島敏行
名古屋市中村区黄金通2-54 TEL: 052-482-6600
URL: <http://www.sakaetax.com>
<http://www.seturitu-unei.com/>
E-mail: info@seturitu-unei.com

地域に根差す 社会貢献企業へ

2021年2月 SDGs宣言



ニーズに応える印刷会社

デジタルコンテンツ・AR(拡張現実)等

オフセット印刷
商業印刷全般

セキュリティ印刷
金券、商品券、証明書等

防災マニュアル・飲料水

菱源株式会社

<https://hishigen.co.jp>

〒490-1144 愛知県海部郡大治町西條松下75
TEL: 052-444-2323 FAX: 052-444-2636
【東京営業所】 TEL: 03-5577-5686

●菱源株式会社は「ボラみみ」を応援しています。

ISO14001:
2015認証取得



気軽に
お問い合わせ
ください

障がい児に水の楽しさを伝えよう!



知的障がい児・身体障がい児・難病児・きょうだい児に、生涯スポーツとして取り組んでもらえるよう活動をしています。プールでのルール、周りの人との共生、仲間や友達作り、プールの楽しさ。ひとりでも多くの子が、プールを楽しみながらパラリンピックも目指せるよう楽しく活動しています。

障害者 スポーツ

名古屋市
瑞穂区

- 日時: 毎週土曜日(3連休の場合はおおよそお休み) 年間48回+8月に短期きょうしつあり
- 場所: 瑞穂スポーツパーク温水プール、日本ガイシスポーツプラザ50mプールほか
- その他: 事前にEメールにてご応募ください。その後、面談・研修をさせていただきます。【資格、条件等】水泳経験必須。暴力・暴言ほか各種ハラスメントを行わないこと。障がい児と対等な立場に立てること【定員】5名

いるかきょうしつ (cool dolphin)

問合せ
担当: 加藤
TEL: 080-3617-8865 (月・水・金曜日13:00~17:00)
E-mail: iruka@cooldolphin.jp



中川区荒子で日本語ボランティア体験



中川区荒子の日本語教室で、外国の方が、文字やあいさつ、文法や会話の勉強をしています。日本語を教えてくださいのボランティアを募集しています。初心者の方歓迎です。教え方などはテキストに沿ってくわしく説明させていただきます。中川区内など近隣に在住の方限定です。

国際 まちづくり

名古屋市
中川区

- 日時: 1月5日(日)・12日(日)、2月2日(日)・9日(日)・16日(日) 9:45~12:00
- 場所: 中川区社会福祉協議会 調理室またはボランティアルーム 名古屋市 中川区 小城町1-1-20
- その他: Eメールにて、お名前、連絡先(電話番号またはメールアドレス)、ご住所(町名まで)、参加希望日をお知らせください。【子ども連れでの参加】可能【定員】1日あたり1~2名

なががわにほんごサロン

問合せ
担当: おざき
TEL: 070-5642-2716
E-mail: nihongo.nakagawa.moriyama@gmail.com



一宮のまちづくりスタッフ募集



一宮市でのまちづくり活動に関わりませんか。チラシ配布などの軽作業から、イベントの企画・運営、デザイン、開発まで、様々な参加の形があります。「杜の宮市」「まの宮市」などのイベント、「一宮市市民活動支援センター」の運営や「com-cafe三八屋」「一宮ブルーリー」の経営、まちなかリノベーションまで様々な活動しています。

まちづくり 団体支援

愛知県
一宮市

- 日時: 木曜日19:00~21:00の定例ミーティング、その他随時(自由参加)
- 場所: 一宮市中心市街地(iビル、本町商店街ほか公共路面上、一宮市市民活動支援センター、プリンスアレイ、com-cafe三八屋など)
- その他: NPO法人志民連いちのみや「まちズン」ページ(QRコード)からお申込みください。【定員】20名ほど

NPO法人志民連いちのみや 担当: 星野

問合せ
TEL: 090-2265-9188
FAX: 0586-72-8885
E-mail: info@shimin.org



愛知・名古屋2026大会ボランティア募集中



2026年に開催される愛知・名古屋2026大会(第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会)のボランティアを募集しています。45の国と地域から選手や観客が集結するアジア最大のスポーツの祭典。「この大会を応援したい!」「アジアの人々と関わりたい!」など、熱い想いで一緒に大会を支えていただける方のご応募お待ちしております!

スポーツ 国際

名古屋市
瑞穂区

- 日時: 第20回アジア競技大会 2026年9月19日(土)~10月4日(日) 第5回アジアパラ競技大会 2026年10月18日(日)~10月24日(土)
- 場所: 名古屋市瑞穂公園陸上競技場をメイン会場に、各競技会場や宿泊施設等
- その他: ボランティア募集特設サイト(QRコード)内の応募フォームからお申込みください。【資格、条件等】2026年4月1日時点で、満18歳以上の方等【申込〆切】2025年1月31日(金)【定員】40,000名

(公財)愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会
愛知・名古屋2026大会ボランティア コールセンター
TEL: 050-1808-0542 (平日9:00~17:30)

問合せ



「ボラみみ」の財源は、みなさんの支援です。



ボラみみ

毎号9千部発行の『ボラみみ』は、ボランティア情報を無料で掲載、無料で配付しています。発行にはたくさんのボランティアが力を注いでいますが、それでも毎回多額の資金がかかります。是非会員になって『ボラみみ』を支えてください。

会員種類と特典

●が得られる特典です。

	賛助会員		正会員	
	個人・団体	法人	個人・団体	法人
年会費	3,000円	10,000円	10,000円	50,000円
ボラみみの活動がわかる年3回のニュースレター	●	●	●	●
市民活動の情報満載の『ボラみみ』が年6号	●	●	●	●
ボランティア情報の優先掲載			●	●
NPOや企業の広報掲載料の割引			●	●
ボラみみの事業活動・運営に参加ができる(総会の議決権)			●	●

■ 振込先 特定非営利活動法人ボラみみより情報局 郵便振替口座/00830-9-71034 三菱UFJ銀行柳橋支店(普)/1799329



新規・継続会員登録の方々 (順不同)

■法人正会員：

【継続】●株式会社イー・アール・エス様

【新規】●株式会社オプコ様

■団体正会員：

【継続】●特定非営利活動法人名古屋ろう国際センター様

■個人正会員：

【継続】●金 源道様 ●三木 絵里子様 ●小松 俊雄様

●小倉 和雄様 ●水野 真由美様 ●谷口 知子様

●鷺見 敏雄様 ●匿名2名

■法人賛助会員：

【継続】●大森授産所様

【新規】●株式会社大塚商会様 ●スノーフレイク・コンサルティング合同会社様

■賛助会員：

【継続】●三谷 洋一様 ●西川 博勝様 ●林 香菜子様

●匿名2名

【新規】●特定非営利活動法人The Music Restaurant様

■寄付：

●近藤 京子様 ●匿名32名



「ボラみみ」配布先

—詳細はホームページにて掲載中!—

●WEBより

<http://www.boramimi.com/haihu/>

●携帯より



QRコード



みんなの声

●特定非営利活動法人ドリーム様

『ボラみみ』を見て当団体を知ってくださる方もいるため、また掲載したいです。

●特定非営利活動法人風の会様

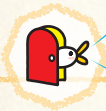
掲載ありがとうございます。掲載から即決定とはいかないですが、地道に募集をお願いしようと思っています。

●守山区ボッチャ協会様

大会を開催していくには、多くの方々の理解と協力が必要です。2回、3回と開催する中で、ボランティアさんなど皆さんと作りあげていけたらと思っています。

●自立のための道具の会・TFSR Japan様

情報誌を見ていらっしゃる方は多いので期待したいですね。



編集後記



(U)

例年11月に行うボラみみより情報局の総会の中で開催する「ボラみみアワード」表彰式。第11回では受賞5団体のうち、3団体の代表者が出席してくださいました。その活動に触れ、遠く被災地や紛争地に思いを馳せ、今、この時も希望の灯をともし人たちがいることに胸が熱くなりました。分野は違えど団体同士がエールを交換する場としても、私はこの表彰式が大好きです。



次号予告

次号のテーマは「伝え合う」。

2025年3月1日発行予定です。お楽しみに！

特定非営利活動法人
ボラみみより情報局

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F TEL 052-228-7824 FAX 052-228-7834
E-mail office@boramimi.com URL <http://www.boramimi.com/> 代表 織田元樹 印刷 菱源株式会社

センター主催講座・イベントのご案内

1/30[木] NPO講座「NPO法人設立のしかた編」

→14:00～16:00

(1月11日受付開始)

「NPO法人ってなに?」「どうやってNPO法人を設立するの?」など、NPO法人の設立前に準備するものや書類作成のポイントを学べる講座です。申請書類をチェックしているスタッフが説明します。NPO法人の設立を考えている方はぜひどうぞ。

■定員:30名 ■参加費:500円 ■講師:市民活動推進センター職員

2/7[金]

NPOのための講座「基礎から学ぶ NPO会計入門講座」

→13:30～15:30

NPO法人を円滑に運営し、団体の透明性と信頼性を高めるためには、正しい会計処理と報告が不可欠です。帳簿記入や経費処理など日常業務のコツ、NPOに独特の会計処理、「NPO法人会計基準」に準拠した決算書類のつくり方など、NPO会計の基礎を初心者の方にもわかりやすく解説します。NPO法人の会計業務に関わる初心者の方をはじめ、いまの会計に不安を感じている方、法人運営に関わる方、新たにNPO法人を立ち上げる予定の方などにもおすすめです。

■定員:20名 ■参加費:1,000円 ■講師:足立 勝彦氏(税理士)

3/26[水]

NPO講座「NPO法人をつくろう」ゲストトーク編&法人設立編 ☆同日開催

→13:30～16:30

(1月11日受付開始) *ゲストトーク編又は法人設立編のみの参加も可能です。

◆ゲストトーク編 <13:30～14:50>

NPO法人の代表の話を直接聞いてみたい方はこちら。NPOの運営や活動への思いなどを学べる講座です。

◆法人設立編 <15:00～16:30>

NPO法人の設立を考えている方は、こちら。NPO法人の設立前に準備するものや書類作成のポイントを学べる講座です。

■定員:各30名 ■参加費:各500円(*それぞれに申込と参加費が必要です)

■ゲスト:福智 久氏(NPO法人東区文化のみちガイドボランティアの会) ■講師:市民活動推進センター職員

講座受講のお申込みは、窓口・電話・FAX・電子メールにて受付けます。電子メール・FAXでお申込みの際は、**講座名・氏名・電話番号・FAX番号・所属団体・参加動機**をご記入ください。名古屋市内に在住、在勤、在学の方、または名古屋市内で活動している(活動する意思のある)個人・団体を対象とします。詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。

※定員に達した時点で、締め切らせていただきます。ご了承ください。

■NPOのためのアドバイザー相談 [参加費:無料、要申込]

内容	日程	担当アドバイザー
会計・税務	1/10 [金] 10:00～, 11:30～, 14:00～, 15:30～	橋本 俊也(税理士)
設立・運営	1/31 [金] 16:00～	織田 元樹(NPO法人ボラみみより情報局)
会計・税務	2/ 7 [金] 16:00～	足立 勝彦(税理士)
設立・運営	2/13 [木] 16:00～	水野 真由美(NPO法人ボラみみより情報局)
会計・税務	2/20 [木] 10:00～, 11:30～, 14:00～, 15:30～	堀尾 博樹(税理士・行政書士)
設立・運営	2/28 [金] 16:00～	織田 元樹(NPO法人ボラみみより情報局)

※アドバイザー相談は、名古屋市内で活動する(または活動予定のある)NPO・市民活動団体が対象です。

名古屋市民活動推進センター
 問合せ 住所:〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号
 申込先 ナディアパークデザインセンタービル6階
 電話:052-228-8039 FAX:052-228-8073
 電子メール:npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp
 URL:https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/



スタッフのつぶやき

スタッフ:黒川

今年4月に異動してまいりました、黒川と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。今まで私が参加したことがある「地域活動」「ボランティア」は、「子ども会」「PTA」「保護者会」…やりたくないけど当番が回ってくる…というものでしたが、いざ参加すると、幅広い年代の方との交流や地域の子どもの笑顔など、普段の生活では体験できない良い体験ができました。まずやってみる!を合言葉に頑張ります。



イラスト協力:加藤舞美

「なごやNPO応援事業」たくさんの応援、ありがとうございました

なごやNPO応援フェス
(2024.10.20)

ナゴヤアドベンチャーマラソン
(2024.11.24)

「なごやNPO応援事業」とは、社会課題の解決に重要な役割を果たしているNPOの活動を応援するため、市民とNPOが交流できるイベントを通して、市民のみならず「NPO」や「ボランティア」について知っていただき、チャリティなどを通してNPOを応援する事業です。

●なごやNPO応援フェス

チャリティイベントやPRブースを通して、市民とNPOが直接交流するイベントです。17のNPOが活動内容や想いをPRし、NPO法人日本ホスピタル・クラウン協会による「クラウン・オン・ザ・ステージ」や、中京テレビアナウンサーの恩田千佐子氏をゲストに迎え、「NPOトークセッション」を行いました。約900人に立ち寄っていただくなど、多くの市民の方にNPOの活動を知っていただくことができました。



●ナゴヤアドベンチャーマラソン

ジョギングや長距離走の愛好者が集う、フルマラソンのチャリティ大会です。11のNPOがブース出展をはじめ、給水や走路誘導など、ボランティアスタッフとして、大会の運営に協力しました。大会には、約1,900人のランナーが参加し、参加費の一部がチャリティとして、NPOの活動資金になりました。



9・10月の設立認証NPO法人



名称	所在区	主な活動分野
名古屋小児がん基金	中区	保健・医療・福祉
愛知県野球協議会	中区	学術・文化・芸術・スポーツ
名古屋駅西アーカイブス	中村区	学術・文化・芸術・スポーツ
かえるのすみか	昭和区	環境保全
ドローン研究開発機構	中区	災害救援
愛知県日本インドネシア友好交流協会	中区	国際協力
日本牛乳文化協会	南区	学術・文化・芸術・スポーツ
精神障害者の孤独をなくすお茶会	昭和区	保健・医療・福祉
あさがお	北区	保健・医療・福祉



10月末現在の所管法人数

★ 認証法人数：877法人 認定法人数：30法人 特例認定法人数：2法人

“災害ボランティアコーディネーター養成講座”を実施します！

名古屋市では、災害時に全国から集まるボランティアの受付・整理を行い、被災者のニーズを把握して、ボランティアと結びつける役割を担う「災害ボランティアコーディネーター」を養成しています。



南海トラフを震源とする大規模な地震の発生が懸念されているほか、全国各地で過去に経験したことがないような豪雨による甚大な被害が発生しており、名古屋市でも大規模災害に対する備えを平常時から行っていくことが重要な課題となっています。

市内各地でこれまでの修了生が、災害発生時だけでなく、平常時にも、地域の防災力を高めるために活動しています。積極的に活動していく意欲のある方のご参加をお待ちしています！

第39期受講者の声（アンケートより）

災害ボランティアセンターの模擬演習では、みんなで工夫して話し合っ、スムーズにご案内ができ、よい体験となった。

実際の災害現場の支援に行ったことがなかったので、現場の生の声を聞くことで多少なりとも実感することが出来た。



第40期 災害ボランティアコーディネーター養成講座

- ◆日 時：2月15日（土）、16日（日）、22日（土）（全3日間）
- ◆定 員：50名（応募者多数の場合は抽選になります） ◆参加費：無料
- ◆対 象：名古屋市内在住、在勤または在学の中学生以上の方で3日間を通して受講可能な方
- ◆会 場：名古屋市総合社会福祉会館7階 大会議室（北区清水4-17-1）
- ◆募集締切：1月21日（火）
- ◆応募方法：下記の二次元コードを読み取り、申込フォームにてお申込みください。
申込フォームからの申込みが難しい場合は、電子メールに、
①住所 ②氏名 ③電話番号 ④学校名または勤務先（市外在住の方のみ） ⑤年齢 ⑥メールアドレス
を記入し、件名を「災害ボランティアコーディネーター養成講座」としてお申込みください。
宛先 npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp

第40期災害ボランティアコーディネーター養成講座
申込フォーム



災害ボランティアコーディネーター養成講座に
ついてはこちら



■なごや防災ボラネット（※前ページ参照）

災害ボランティアコーディネーター養成講座の修了生が所属する、市内各区の自主的な災害ボランティア団体等が協働している、ボランティアのネットワーク組織。名古屋が災害に強い都市になるよう、市民への啓発活動や被災地復興支援、学習、訓練、行政・企業への提言・連携、会員拡大などを進めるための活動している。災害時には、災害ボランティアセンターの運営協力と被災者への支援を行う。

なごや 市民活動通信



2025
1・2月号
No.115
無料

「なごや防災ボラネット」が、愛知県から表彰されました！

2024年11月10日、あいち地震防災の日(毎年11月の第2日曜日)に行われた、「あいち防災フェスタ」にて、防災活動に積極的に取り組み、地域防災力の向上に貢献した団体として、名古屋市で活動している「なごや防災ボラネット」が表彰されました。

名古屋市主催の災害ボランティアコーディネーター養成講座を母体として発足した「なごや防災ボラネット」は、15年以上に渡り、名古屋市内の防災の守り手としての活動だけでなく、能登半島地震など他地域での被災者支援活動にも尽力されていることから受賞が決定。市内各区において、行政、地域自治会などと協働して防災啓発活動をする中で、来るべき南海トラフ巨大地震に対して市民を交えての復興・復興活動の大切さを訴えています。



【代表 高崎賢一さんの受賞コメント】

「これまでご支援いただきましたみなさまのおかげです。誠にありがとうございます。なごや防災ボラネットの団体独自の活動に加え、なごや防災ボラネットとして被災地支援等に尽力してきたことは、私たちの誇りであります。長年にわたる活動が認められたことについて、お互い称え合いたいと思います。」

災害ボランティア、地域防災の担い手に興味がある方は、次ページの「災害ボランティアコーディネーター養成講座」を受けてみよう！



※この冊子は、「なごや市民活動通信」と、「未来をつむぐライフマガジン『ボラみみ』」の合冊です。

■発行日：2025年1月1日

●「なごや市民活動通信」のお問い合わせ

●「ボラみみ」のお問い合わせ

■発行部数：9000部

名古屋市市民活動推進センター TEL 052-228-8039

特定非営利活動法人ボラみみより情報局 TEL 052-228-7824

印刷：要源株式会社 ©名古屋市市民活動推進センター 2025 禁・無断転載